

報告者名  
報告年月

宮崎県中小企業団体中央会

令和5年12月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製造業	木材・木製品	製材業	原木の出材量は依然として安定しない状況である。ただ、例年ほどの需要の盛り上がりがないため、さほどの買い気なく原木価格は全体的に軟化している。製品の方も住宅需要が伸びず、製品の荷動きが向上要素はない。よって、年明け以降さらに引き合いが弱まる懸念される。
	木材・木製品	製材業(プレカット)	12月の加工実績は前年並み(前年比101%)、住宅は「減」で非住宅は「増」となった。売上が落ちないのであればこの傾向のままでもいいかと思うが、非住宅も減り始めると状況が大きく変わってしまうのでその点は不安である。非住宅は増えていく傾向だと考えているが、物件の規模や建つ場所については住宅ほど見通すことができないため、不確定要素が多い。
	木材・木製品	木製品製造業	経費の拡大や原材料費が上昇するなか、製品単価や請負単価は上昇難である。
	印刷	印刷・関連業	今月も人材確保が最優先である。賃金をあげるにも限界がある。「仕事のやりがい」について理解してもらって手立てを考えている。また、設備投資についても、老朽化が進み、修理維持するために苦労しているのが現状である。
	印刷	印刷・関連業	平均で10~20%程度の値上げを行っている事業所が多いものの、原材料費も同額またはそれ以上に値上がりしていて、利益ベースとしては少し圧迫されている傾向にある。なかなか大幅な値上げを受け入れてくれるクライアントも少ないので、そこ辺りは粘り強く交渉していくことが必要かと思う。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	11月出荷数量昨年同月比45%、4~12月累計出荷数量昨年比79%となった。ただし、昨年今年と実施した販売単価の値上げにより、組合員を大きくサポートすることができている。地元大手企業の大型設備投資が1年延期となり、来年度も厳しい出荷数量となりそうである。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	昨年、一昨年在り非常に低い数字で着地したため、今期が例年通りであっても非常に上伸したように感じる。昨年在り1,081㎡、今期が1,665㎡と昨年対比は154%になるが、出荷数量は例年より少なめである。
非製造業	小売業	小売商業	12月になると、いつもなら年末商戦真っ只中、忙しく仕事をしている頃だが、今年はクリスマスが近くなっても、お正月が近くなっても売上げは上がらず、苦戦している店が多いようだ。
	小売業	石油販売業	冬場の主力商品である灯油の販売が、暖冬により苦戦している。また、コロナ5類移行後の年末を迎え販売増が期待されたが、価格高騰の影響もあり需要は回復していない。
	小売業	LPGガス小売販売業	12月合成CP価格(サウジ通告価格)は610 <sup>F<sub>g</sub>/トン</sup> (前月比±0 <sup>F<sub>g</sub>/トン</sup> )。11月MB価格(米国产平均価格)+(物流経費84 <sup>F<sub>g</sub>/トン</sup> )は418 <sup>F<sub>g</sub>/トン</sup> (前月比△21 <sup>F<sub>g</sub>/トン</sup> )。対顧客電信売相場(11月平均)は150.95 <sup>F<sub>g</sub>/トン</sup> (前月比+0.35 <sup>F<sub>g</sub>/トン</sup> )。LPG価格は米国产LPGのバナマ運河通航の減少に伴う遅延リスクを背景とし、中東産LPGへの代替需要増加の期待が高まったことで一時上昇したものの、原油価格に引き摺られて下落。前月価格とほぼ横ばいとなった。
	商店街	宮崎市	ネット販売におされ、実店舗販売の落ち込みが大きい。
	商店街	都城市	年末になり人の活動がawただしくなり各店舗それなりに忙しくしているようだった。売上は順調に伸びているなか、人出不足と仕入れの高騰は悩みの種で、せつかくの売上も利益を圧縮するばかりだ。県が旅行者に配っているクーポン事業の利用が飲食店などで多い。また、市が発行しているプレミアム商品券利用も利用期限が迫ってきて店舗によっては賑わっているようだ。
	サービス業	観光業	12月上旬まで続いた秋の繁忙期は、久々の活気に満ちたものとなり大変な難いことであった。組合員全員、多忙ながらも日々の乗務を健康で無事に務めあげ、お客様やエージェントから喜びや感謝の言葉を多々頂戴して、有意義な年末を迎えることができた。
	サービス業	自動車整備業	今月は前年比15%増の入庫台数となった。ただ今月は組合員の廃業があったので、今後も増加傾向が続くか分からない。
	サービス業	自動車運転代行業	繁忙期に入り、業績は向上している。従業員の確保難に頭を悩ませている。
	建設業	管工事業	中間決算では減収増益にて推移、資材供給品売上は前年並みの実績であるが、市発注の修繕業務等の減収が主な要因で、通期での今期の収益見込みは、下期は工事高、資材供給品売上ともに減少を見込み、減収減益を予想。年末年始建設労働災害防止協同運動の実施に伴い、11月21日(火)に宮崎労働基準監督署と共同で工事現場の労働安全パトロールを実施し、指摘事項等を組合員に「全員協議会」において周知徹底した。
	建設業	管工事業	一般住宅着工件数が減少傾向のなか、資材等の価格高騰により収益が減少し、益々厳しい状況が続いている。
運輸業	軽貨物運送業	年末の繁忙期ではあるが、高齢組合員が増加しているため若返りの対策が急務である。年末に3名ほどの新規開業者がいたが、車両の納車が間に合わず現場研修のみで、売上には貢献できなかった。燃料関係は高止まりのまま推移し、組合員の経営を相変わらず圧迫しているのが現状だ。他の業者も同様の悩みを持っており年々厳しい環境になるのではと心配である。	
運輸業	貨物運送業	原油価格は米消費者物価指数が予想に反して前月比で上昇したことにより、政策金利が高止まりして景気後退を引き起こす懸念され、円相場上昇を反映し大幅に引き下がっているが、政府補助金が減額調整されることから国内燃料価格は小幅に上昇する見込みであり、組合員の不安感はなく解消されていない。	